

所得向上支援中！

今年度から実施している所得向上プログラム実践支援事業は、農業者がモデル的に所得向上に取り組む活動を支援し、地域に普及させて全体の所得向上を図ることを目的としており、上北管内では9件（活動）が採択されています。普及指導員が農業者の設定した目標の達成に向けて、スマート化に適した栽培管理体系への改善や、輸出向け商談会参加等を通じた販路拡大などについて伴走支援を行っています。



経営改善に向けた伴走支援(8月14日)

祝 旨い米グランプリ 準グランプリ受賞

七戸町の真鍋鉦一さん（76歳）が、品種毎に県産米の食味ナンバーワンを決める「令和7年産あおもりの旨い米グランプリ」の「まっしぐら」の部で準グランプリを受賞しました。

12月11日に行われた受賞者表彰式では、妻の百合子さんが出席し、表彰を受けました。真鍋さんは、令和7年産米で懸念された高温への対策として、きめ細かな水管理と適期刈取に取り組んだ結果、高品質なお米を生産できたと話していました。



賞状授与の様子(12月11日)

新任職員の活動紹介

『毎日修行』地域第2班：松田 大洋

私は野菜担当として生産振興に取り組んでいる他、農業気象のとりまとめやこの「楽農通信」の編集も行っています。

今年度は厳しい気候条件も重なり、自身の力不足を思い知らされる場面も多くなりました。

上北で日々会おうすべての方が私にとっての師匠です。今後常に学び、吸収したことを普及指導に活かすことを意識しながら、業務に取り組んでいきます。

『成長』三沢分室：野呂 唯人

私は三沢分室の水稲担当として生産指導などの業務を行っています。

これまで水稲に携わることがなかったため、当初は分からないことばかりで自身の勉強不足を痛感する日々でした。しかし、様々な研修や日々の業務を通じて、理解できることが多くなり、この1年間の成長を強く実感しています。これからも積極的に現地へ出向き、知見を深め、さらなる成長を目指して邁進していきたいです。



かみきた楽農通信

第67号
令和8年2月6日発行

青森県上北農林水産事務所

○ 農業普及振興室

青森県十和田市西十二番町20-12

TEL：0176-23-4281

FAX：0176-25-7242

○ 農業普及振興室三沢分室

青森県三沢市東岡三沢1-1-7

TEL：0176-53-2498

FAX：0176-53-8539



ホームページは で検索 またはこちらをスキャン！

今年度の上北を振り返って

今年の天候は、夏季を中心に高温・渇水が続き、農作物への影響が懸念しました。このため、当室では、高温等の予報と現地巡回により作物の状況をきめ細かく把握しながら、講習会等を通じ、作物ごとに、予防的な高温対策を行うよう呼びかけました。



収穫の早期化に対応し適期収穫を
励行したにんにく講習会(6月4日)



乾燥時のしおれない培土方法を
指導したねぎ講習会(7月2日)



秋期の高温に対応し追肥早期切り上げ
を指導したながいも講習会(7月17日)



高温時に多発する病害虫の防除を
指導したトマト講習会(8月22日)

生産者の皆様の、天候に応じたきめ細かな管理に加え、8月以降、定期的な降雨にも恵まれたことから、作物の生育は順調に回復し、水稲では平年並以上の品質・収量となり、野菜についても良い出来秋を迎えることができました。

一方、11月下旬から、降雨や積雪が続いたことで、秋掘りながいもをはじめとした根菜類の収穫が遅れて、春掘作業で収穫する割合が多くなっています。

当室では、生産者、関係機関の皆様と連携しながら、春作業がスムーズに開始できるよう、普及活動に努めていきますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和7年度 農業普及振興室の主な活動

新規就農者定着、経営管理能力強化

近年、多様な就農形態の新規就農者が増加しており、当室では、支援を希望した就農者十数名を重点指導対象者として選定し、個別課題の解決に向けて、巡回や面談による伴走支援を行っています。

また、年間を通じて「ヤングファーマーゼミナール」を開催し、土づくりや農薬の使用法、農作業安全等の基礎的な生産技術に加え、パソコン農業簿記を活用した経営管理まで、体系的に知識習得ができるよう支援しています。



農作業安全等研修(11月6日)



榑寅福プラント視察(9月5日)

9月には、管内の先輩農業者との交流を通じて、実践的な経営を学んでもらうため、管内3地区(野辺地、十和田、三沢)農業士会と合同による先進地視察研修を実施しました。

むつ市の榑寅福プラントでは、生産担当者から、オランダ型ハウスによるトマトの周年生産体制や雇用対策を、六戸町のジョイント・ファーム榑では代表の新堂友和氏(農業経営士)から、ながいもの流通加工や社内の組織運営を学び、優れた農業経営への理解を深めました。

ながいもの産地力強化



調査ながいものを並べての検討会(12月17日)

「夢雪」は、「庄司系」等に比べていも長が短い特性が確認されたものの、土質や場所、気象条件等によりコブ・平いもの発生がみられました。

また、「切いも」による種苗増殖に変えても、従来と同等に、生産者に供給できるむかごが問題なく生産できました。

次年度以降は、新品種の適正施肥や株間、切いもの催芽技術の検討を進めることとしています。



連続掘りした実証ほ「夢雪」(こぶ・平いも有り)

管内では、ながいもの品質や収量を高めるため、新品種「夢雪」の安定生産技術の確立や、優良形質を維持しやすい「切いも」による種苗増殖体系への切替に取り組んでいます。

今年度は、新品種「夢雪」栽培技術試験展示ほ(6カ所)、切いも増殖方法実証ほ(3カ所)を設置し、その結果について、管内のながいもの達人、展示ほ・実証ほ担当農家、関係機関により検討会を開催しました。

農福連携推進

農業・福祉関係者参加の交流会(11月28日)



障がい者による長ねぎの調整(10月23日)



- かみさた農福連携ホームページ(当所HP)
- あおもり農福連携プロジェクト(株)レイズ運営

「農福連携」は、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに障がい者の自信や生きがいを創出する取組です。

今年度、新たに管内に連絡会議を設置したほか、現地研修会を開催し、障がい者による農作業の見学や課題などの意見交換を行いました。

また、交流会では、先進事例を学んだほか、農業者と福祉事業所の新たなマッチングを図りました。

今後、農福連携を更に発展させ、生きづらさを感じている方など多様な人々が農林水産業に従事できる「ユニバーサル農業」へと取組を広げていきます。

大豆の生産力強化

上北地域は、転作作物として大豆が大規模に作付けされていますが、収量・品質の年次変動が大きい状況にあります。当室では、巡回指導や実証ほの設置、「だいた通信」の発行などを通じて、収量・品質の向上を図っており、本年は、作柄が良かったとの生産者の声が聞かれました。

2月には、大豆生産者座談会を開催し、令和7年の大豆栽培を振り返るとともに、栽培上の課題を取り上げ、令和8年度の指導を進めていきます。



大豆栽培ほ場の様子(7月24日)



適期刈取指導(10月24日)

水稻生育障害発生水田における安定生産への取組



土壌調査の様子(5月16日)



豊かに実った障害発生ほ場(9月12日)

昨年度、おいらせ町日ヶ久保地区の水田11.6haで海水の混入によると思われる水稻の生育障害が発生しました。

当室では、今年度、町や土地改良区等の関係機関と連携しながら、塩類濃度が基準値を超えたほ場の田植え前の除塩対策を指導しました。

特に、除塩作業実施前後の土壌ECの測定や定点生育調査を行い、生育状況の共有や栽培管理などを指導したところ、本年は例年並以上の作柄が確保できました。